

第9課 美容院と理髪店

1. この課のねらい

- (1) 美容院や理髪店で髪型をかえてもらったり、セットをしてもらったりするために必要最小限の言葉を習得させる。
- (2) 荷物預け、待ち時間の確認、髪型の指定、会計など、美容院や理髪店で出会う場面で使われる言葉のやりとりを理解させる。ジェスチャーを併用して「お願いします」と言うなど、目的遂行に最低限必要な言葉を学ばせる。
- (3) 日常生活でよく利用するであろうと思われる店、施設などについての知識を身に付けさせる。

2. 学習項目とその扱い方

〔会話一〕

(1) 学習項目表

区分	使用	理解
最重要項目	○はい、お願いします。(5)	○お荷物 お預かりしましょうか。 (4)

(2) 準備

- ①美容院あるいは理髪店ごっこができるように、机や椅子の配置を考える。鏡台があれば、それも使うとよい。
- ②また、教室内の机をコの字型か半月型に配置し、お客用として学習者の方に向けて、まん中に椅子を一つ置く。ドア寄りの場所には、待合室のコーナーを作る。

(3) 導入

- ①日本で、美容院や理髪店に行ったことがあるか、いくらぐらいかかるか、どのように指示をするかなどと質問してみる。また、学習者が日本の生活にも慣れ、日常の言葉がかなり話せるときは、中国と日本では美容院や理髪店がどのように違うか、話し合ってもよい。教科書の〔関連表現〕にある料金表を使って関連語彙を学習させていくのも一つの方法である。
- ②課全体の場面の導入ができれば学習者一人をお客にして、美容院や理髪店に入ってくるところから会話を始める。

教授者は「いらっしゃいませ」とか「すみませんが、そちらにおかけになって少々お待ちください」とか言う。また、学習者にコートやかばんなど、自分の荷物を持って入らせて、「お荷物 お預かりしましょうか」と聞いてみる。〔会話一1〕〔会話一2〕は同じ場面なので続けて導入してもよい。なお、お客になる学習者が男性の場合は〔会話一3〕〔会話一4〕の方を導入として用い、〔会話一1〕〔会話一2〕の表現は応用会話として練習に用いればよい。支払いの場面（〔会話一5〕）まで続けて導入することもできる。

(4) 練習

①美容院や理髪店で使われるだろうと思われる表現をいろいろ交じえて、会話の練習を行う。「お次の方 どうぞ」、「こちらへどうぞ」などの指示が理解でき、それに従って実際に行動できることが重要である。

②また、「お荷物 お預かりしましょうか」「はい、お願いします」については、学習者の様子を見て、余裕がありそうなら、二人ずつ組にして会話練習を行う。「お荷物 お持ちしましょうか」、「お茶 お入れしましょうか」などの表現が使われる場面を使って練習することができる。「お～する」の表現形式を用いることが、まだ無理のようなら、「荷物 持ちましょうか」「お茶 入れましょうか」という表現でもよい。あるいは、重そうな荷物を持ったり、「ああ、のどがかわいた」とか言ったりして場面を作り、学習者に「～しましょうか」と言わせてもよい。また、申し出を断る表現も少し練習しておくもよい。

〔会話一2〕

(1) 学習項目表

区分	使用	理解
最重要項目	○パーマ お願いします。(2)	○シャンプーは してありますか。 [*] (3)
重要項目	○(写真を指さして) これと 同じように お願いします。(6)	○今日は どうなさいますか。(1) ○ヘアスタイルは どのように しましょうか。(5)

* 「～てあります」は準備終了の状態を表す。完了、結果、存在を表す「～ています」は第10課の学習項目であり、同課の〔4. 表現練習〕では「～てあります」「～ています」の両方が出てくるが、まず、この課で「～てあります」を導入し練習しておく。

いた方が混乱が少ないであろう。

(2) 準備

机や椅子の配置は〔会話一1〕と同じでよい。ほかに、はさみ、くし、タオルなどを用意すると美容院や理髪店の感じがでる。また、ヘアスタイルを指定する際に使う写真や雑誌などもいくつか用意し、お客用の席の前に机を置いて、その上にくしや鏡などと一緒にのせておく。

(3) 導入

〔会話一1〕に続けて導入する。教授者は、美容師になって学習者をお客用の席に座らせ、「今日はどうなさいますか」と聞く。

(4) 練習

予習が十分にできていたら、〔関連表現1〕を参考にしていろいろな会話の練習をしていく。

①「～お願いします」「これと同じようにお願いします」については、いろいろな用法があるが最低限必要なものを身に付けさせる。

②なめらかに言えない学習者には、まず「お願いします」を定着させ、写真や雑誌などを指さしたり、切ってもらいたい長さを手で示したりするジェスチャーをも併用して「お願いします」と言えるようにさせたい。

③口がよく回って反応も早い学習者には、「シャンプーとカットお願いします」「～のスタイルと同じようにお願いします」などの表現も練習しておくとうよい。

④さらに余裕があるようなら、「これと同じようにお願いします」で、「同じ」「違う」を練習しておくとうよい。「AとBは同じです／違います」「AはBと同じです／違います」が定着したら、「中国と日本は気候が違います」のような表現も練習するとよい。

⑤「シャンプーはしてありますか」については、「ゆうべ、シャンプーをしました」「シャンプーはしてあります」というような表現を用いて導入し、その意味・用法を理解させる。単純な表現の練習(例：シャンプーをしました→シャンプーはしてあります)のほか、二人ずつで、

シャンプー→A：シャンプーをしましたか。

B：ええ、シャンプーはしてあります。

というように会話練習をさせたり、教授者が場面を設定し、学習者に質問させたりしてもよい。(例：「今晚、お客さんが来ます」→「ビールは買ってありますか」「そうじはしてありますか」など)

〔会話一 3〕

(1) 学習項目表

区分	使用	理解
最重要項目	○すみません。どのくらい かかり ますか。(1)	○ちょっと かかりますよ。1時間 くらいかな。いいですか。(2)
重要項目	○ええ、待ちます。(3)	

(2) 準備

〔会話一 1〕と同様。さらに、待つ時間をかえたり、お客が出直してきたりする場面の応用会話のテープを録音しておく。

(3) 導入

①〔会話一 2〕に続けて導入できる。学習者が二人以上の場合は、〔会話一 2〕が、問題なく言えるようになったところで、学習者の一人は、そのままお客の席に残し、別の学習者に登場させる。教授者は「いらっしゃいませ。申し訳ありませんが、そこにおかけになって、お待ちください」などと言って、学習者の反応をみる。その学習者が待合室の席にかけたら、もう一人か二人、同様にやらせてみて、予習の程度を調べる。

②学習者が一人の場合は、応用会話のテープを聞かせるなどして、内容について質問するとよい。

(4) 練習

客が急いでいる場合、出直すことにする場合、また、学習者が女性なら、美容院に入ってすぐカットかパーマかなどと聞かれる場合など、いろいろな状況を考えて会話の練習を行う。慣れてきたら、学習者に理髪師（美容師）をやらせてもよい。

〔会話—4〕

(1) 学習項目表

区分	使用	理解
最重要項目	○今と 同じ形で 少し 短くして ください。(2)	○はい、分かりました。後ろは 刈 り上げていいんですね。(3)
重要項目		○どうも、お待たせしました。めが ねは、こちらへ どうぞ。(1)

(2) 準備

〔会話—2〕と同様。また、髪型を指定する場合に用いられるほかの表現（例：「あのう、後ろをもう少し短くしてください」「横3センチくらい切ってください」）を使った応用会話を用意し、録音しておく。

(3) 導入

①〔会話—2〕と同様、〔会話—2〕か〔会話—3〕に続けて導入できる。学習者が複数いる場合は、二番目からの客を〔会話—3〕を使って待たせておき、初めの客が終わったところで、「お待たせしました。次の方どうぞ」と呼ぶ。髪型の指定がきちんとできるか確かめる。

②あるいは、会話本文や応用会話のテープを聞かせて「ヘアスタイルはどうですか」「どのくらい切りますか」などと聞いてもよい。

(4) 練習

①予習が十分なら、そのまま会話練習を続け、いろいろ質問をしたり、指示させたりする。学習者同士で床屋さんごっこをやらせてもよい。あらかじめ写真などを見せて髪型を決めておき、そういうスタイルになるよう口頭で指示させてみるのもおもしろい。

②「今と同じ髪で少し短くしてください」については、まず〔イ形容詞〕の復習をし、「(短)い・(短)くする・(短)くない」の形を定着させる。(〔1. 表現練習〕参照)その後、〔2. 会話練習〕や、「長い」→「長いですね。もう少し短くしてください」というような練習を行ってもよい。

③また、「～で～」という表現については、〔3. 表現練習〕のような文連結の練習をする。その際、ある一つのことについて述べている場合（同練習の2、3、4、5、8）と、二つのことについて述べている場合（同練習の1、6、7、9）があることを説明する。

④「後ろは刈り上げてもいいですね」については形の練習をした後、「はい、刈り上げてください」と「いいえ、刈り上げないでください」とを対にして会話練習ができる。

⑤余裕があれば「～でもいい」と「～てはいけない」の対、さらに「～なくてもいい」「～なくてもはいけない」などについて導入、練習してもよい。

例1. ここで写真を撮る → A: ここで写真を撮ってもいいですか。

B: いいえ、撮ってはいけません。

例2. 日曜日もある → A: 日曜日にも来なくてはいけませんか。

B: いいえ、来なくてもいいです。

[会話-5]

(1) 学習項目表

区分	使用	理解
最重要項目		〇どうも、お待ちどおさまでした。 [*] (1)

* 学習者が使用する表現として「お待たせしました」を覚えさせておくもよい。

(2) 準備

お金を用意する。

(3) 導入

[会話-1] ~ [会話-4] に続けて行う。

(4) 練習

問題がないようなら、初めに美容院（理髪店）に入るところからお金の支払いまで一続きにして会話の練習を行う。

3. 文型・文法に関する参考事項

(1) 中止法 (文₁で、文₂) —— 文と文を連結し、一つの文にする。

① 文₁、文₂が同じ主語、主題を持つ場合

例: あの人は林さんの友達で、名前は山本さんです。

② 文₁、文₂がそれぞれ別の主語、主題を持つ場合

例: これはテーブルで、それは冷蔵庫です。

(2) 〔イ形容詞〕の形の整理

基本型：(短)い

副詞型：(短)く → (短)くない、(短)くする、(短)くなる

(〔イ形容詞〕〔ナ形容詞〕の整理は第14課参照)

(3) 「は」の用法

①主題を表す。 例：今日はどうなさいますか。シャンプーはしてありますか。

②対照を表す。 例：シャンプーはしましたが、カットはまだです。

また、「は」は否定文で多く用いられるが、これもある種の対照を表した用法だと考えられる。なお、他の助詞に「は」が付いた形としては次のようなものがある。

が→がは、 を→をは (例：黒いかばんはありません。)へ→へは、 に→には、 と→とは、 (例：新宿へは行きません。)